

第1回 第20回アジア競技大会名古屋市レガシー・ビジョン有識者懇談会における主な発言

【全体的な考え方】

- 都市の弱点を発見し、アジア競技大会を名古屋の発展にどう生かすかが大事。触媒としての使い方を議論すべき。
- レガシーというと20年後ぐらいの視点になってしまう。あえて100年後に何が残せるのかを意識することが良いのでは。
- 4つのカテゴリーを統合する理念を提示し名古屋市のビジョンを形成する必要がある。
- レガシー・ビジョンの策定に当たっては、アジア競技大会は一過性のもではなく、オリンピックムーブメントの一環としての社会運動、社会的なイベントであるということ、十分に市民に理解していただくことが必要。
- スポーツでは「勝敗」に価値が一元化されてしまう傾向があるので、様々な人が集まったにもかかわらず、多様な価値観が生かされなかったり、互いの価値観を尊重する機会にならない可能性がある。アジア競技大会をスポーツイベントとしてだけでなく、「祝祭」のようなイメージで捉え、名古屋市民だけでなく、アジアの人々が自分たちの未来や社会に対するビジョンを共有する場と考えるのが良い。
- レガシーを考えるにあたっては、「10年先、20年先に残る仕掛け」、「継続的に発展する仕掛けやその担い手を見込むことができるストーリー」が大切。
- レガシーを考える際にイベント前後の視点が必要である。なお、経済的なレガシーを考える場合、事前に効果を計ろうとすると過小評価する可能性があるので留意が必要。
- アジア競技大会をきっかけとして、どのような名古屋市を作っていくか、アジア競技大会をどのように成功させるのか、大会に向けて準備してきたことを大会終了後にどう活かすかという3つの観点がある。

【健康・地域活力】

- アジア競技大会と名古屋市の課題をクロスに考えて、その課題解決につながる仕組みであれば、自治体や地域社会の継続的な取り組みにつながり、それがアジア競技大会のレガシーになる。例えば、アジア競技大会と「健康・スポーツ」を結び付け、名古屋が生涯スポーツや健康スポーツのメッカになることを目指してはどうか。アジアにとって日本は課題先進国でもあり、高齢化社会に相応しい生涯スポーツを楽しむ健康まちづくりができれば、それはアジアにとってもモデルとなる。
- 健康とスポーツを結びつけ、お金を掛けずにインセンティブ的な仕組みを市全体のムーブメントとして今から仕掛けるのが良い。ITを利用し、スポーツを楽しみながら市民全体が健康になっていく仕掛けがあれば、市民の健康状況も改善し、健康意識も向上すると思う。
- スポーツに無関心の人に関心をもたせるには、いかに楽しく、ドキドキワクワクして参加してもらえる内容や広報があるかが大事。「ご当地ゆるスポ」「未来の山口の運動会」のように、考えもつかないようなものを運動と融合させ、運動に苦手意識を持っている人でも楽しめるようなものを残すことが一番良い。

【誇り・魅力】

- 大会を契機として、大勢の外国人が来る国際的に魅力ある市にするという視点が重要。
- 名古屋のインバウンドは周遊率が低く素通りしているのが現状。リニアが開通すると第2成田空港になる可能性があり、非常に問題なので新しいまちづくりの視点が重要。
- 国際的な視点を踏まえ、名古屋の貿易、投資、人の移動がより円滑に進む施策が必要。

- 愛知・名古屋大会への各国からの参加者が継続的に交流できる仕掛けを考えられないか。大会を縁とした人的ネットワークの核として名古屋がリアル・バーチャルを問わず位置づけられるような仕組みをつくり、アジアでのスポーツ競技連盟のコンベンションの場として、名古屋が意識されるようになるとよい。

【学び・国際交流】

- アジア競技大会は平和と国際協調を基点としたイベントであり、名古屋市の将来的なビジョンとして、国際的に開かれた都市であり続けることが重要である。
- アジアの国々と日本は垂直的な関係から水平的な関係に移行していると考えられる。非常に経済的に力をつけてきた国々と今後どのような関係を構築・維持するか考える良い機会となる。
- アジアの国々とスポーツを通じて、あるいは文化や経済面などにおいて、多様な交流を今から進めていく必要がある。
- 多文化を尊重し、多様な人材にとって住みやすい都市を作っていくという視点が重要。外国人だけでなく、女性、障害者、子供など多様な人々が共に生活しやすい環境をいかに整備・拡充していくかがポイントになる。大会開催に向けて、これらの人々を企画段階から巻き込むような交流イベントができるといい。
- 留学生や家族連れで駐在する外国人のために、病院や学校など生活に必要な施設を多言語で対応できるようにし、外国の方が住みやすいまちにすることは、国際都市として名古屋市を開かれた都市にするために非常に重要。
- スポーツやビジネスの場でも人材が不足する傾向があるので、海外から家族連れで来てくれる長期滞在者に、住みやすい環境を提示できることが重要。

【大会モデル・先端技術】

- レガシーの視点として、次世代を担う人と技術への積極的な投資が重要。
- パリ協定による各国の地球温暖化対策がどのくらい進捗しているか、2023年に実施状況確認があることを踏まえ、名古屋のレガシーとして、低炭素社会をつくっていくため、次世代エネルギーを取り込んだ住環境や移動設備等へ投資を誘導するのも大切な視点。
- 次世代対応を考えると子供たちを巻き込むことが重要。名古屋市の施設を使用しながら、健康やスポーツ、科学技術を伝えるきっかけとし、大会期間だけでなく、その前後にも市民の意識を高めるようなイベントを実施することが考えられる。
- 大会は日本の科学技術のアピールの非常にいい場でもあると考えられる。日本の技術を今後世界に輸出し、名古屋が豊かになり住みたくなる街にするような環境を構築するのも良い。
- 大会が科学技術を次世代に残していくようなきっかけにできれば、スポーツだけでなく名古屋として発展していくきっかけになるのではないかと。
- テクノロジーを使ってアスリートの感覚を一般の人と共有できたり、解析して見える化できれば言葉がうまく伝わらなくても、みんなで共有出来る。名古屋でも触覚を研究している先生も多数いるので、うまく産業界に流用できるような形にもってけると良い。憧れの選手がどんな感じでプレーしているか感じることもでき、子どもたちも科学にもスポーツにも興味を持ってくれると思うので、スポーツ以外にも、いろいろな分野に技術が残していけるのではないかと。
- 社会基盤を維持していくような投資はこの大会を契機に進めてほしい。また、波及効果の大きいものを優先的な投資の対象と考えていった方がいいのではないかと。

- 既存施設の改修で対応した方が良いのか、新しいものを整備した方が良いのかは、しっかり議論がいるのではないか。
- 競技施設については市民とアスリートの両者がうまく使える施設を考えることが必要。どの対象にも適用できる施設作りを目指すことが、広く活用できることにも繋がる。選手村にも共通すると思うが、全てにおいて、大会開催時にアスリートだけが満足し、大会後に市民に負の遺産になるということは避けなければならない。
- 選手村のレガシーとして、健康・スポーツ・交流をコンセプトとしてまちづくりを進めることが考えられる。また、周辺の公園・緑地との緑道ネットワークを作りながらジョギングコース等を配置するなど、当該地区とともに周辺地区全体の魅力化・地区環境の向上につなげていくことが必要。
- 住みたい都市を選手村のあとにつくってもらえると、世界から人が集まる街づくりの一つの目標になると思う。
- 選手村については、アジアを含め複数の新進の建築家によってデザインされた集合住宅を建築博覧会的に開発すると、一つのレガシーとなる（福岡市のシーサイドももちの開発のようなもの）。